

## 国際医療福祉大学が地域の活性化に

### 資することを願っています

国際医療福祉大学福岡保健医療学部長

辻 貞俊教授

四月から国際医療福祉大学福岡保健医療学部長、兼医学検査学科長に就任された辻貞俊教授にお話を伺った。辻教授は、前産業医科大学医学部長。また日本臨床神経生理学会理事長でもある。このたび高木理事長の熱心な要請に応え、現職に就かれている。四十七年ぶりの懐かしい大川。実は大川市中木室の出身だそう。大学と一体となった地域の発展に意欲的だ。

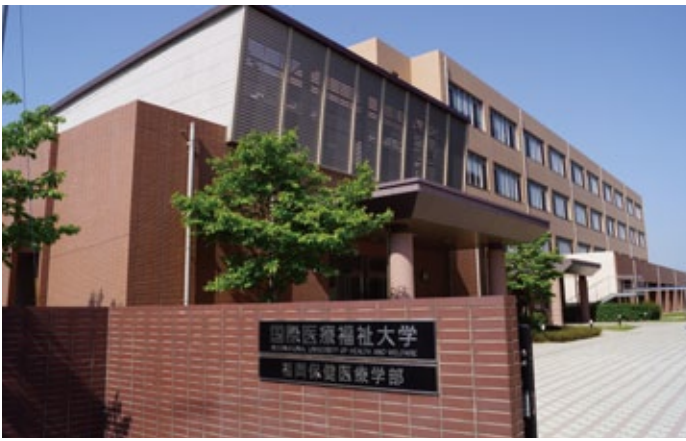
国際医療福祉大学大川キャンパスは四月に「医学検査学科」が新設され、学部名称を「福岡保健医療学部」に変えている。従来の理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科に、新たに医学検査学科を加えた四学科でのスタートだ。

まず、大学のプロフィールに

少し触れておこう。国際医療福祉大学は、平成七年に「日本初の医療福祉の総合大学」として開学。四月一日現在、学生数は、

大学・大学院併せて六七一七名。就職や資格に強い大学の一つである。「サンデー毎日」の「全国二四〇大学就職率ランキング」では全国三位。私立大学では三年連続一位である。また『東洋経済』の特集「資格に強い大学」にもランクイン。栃木県の保健医療学部は、作業療法士、言語聴覚士の合格者数が全国一位。福岡でも理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の合格者数が上位十大学に入るなど、レベルの高い教育を実施している大学である。

さて、「医学検査学科」ではこれからどんな教育を行うのだ



国際医療福祉大学





辻教授による授業のひとつ

ろうか？「一言で言えば、臨床検査技師の養成ですね。今や診療の分業化が進んでいます。正確な診断を行い、最適な治療を行うには、それに必要な情報を提供する臨床検査技師の役割が極めて重要であり、不可欠であるのです。ところが、全国的に臨床検査技師が不足しているのが現状です。この学科新設はまさに時代のニーズと言えます。」

「福岡保健医療学部医学検査学科」の特長はなんだろうか？高度化した医療に対応するさまざまな検査のみならず、遺伝子検査、エコー検査、MRI検査などに対応できる高い能力を持った次世代の専門家を育てる教育だ。「たとえば遺伝子検査に対応できる臨床検査技師に



真剣に授業を受ける学生たち

よって『オーダーメイド医療』が可能になります。遺伝子レベルの個人差を把握することで、抗がん剤のような薬がその人に効果があるか、ないかを見分けることができます。個々の人に応じた、治療、病気の予防に役立てられます。」

他にどんな特色があるのだろうか。「関連職種連携教育です。平たく言えば、学科の枠をこえて、学生が横断的にチームを作り、グループ学習によって連携基礎技能を身につけるようにするのです。少子高齢化、疾病の多様化に伴い、もやは医師だけでなく

の医療をカバーするのは難しくなっています。医療福祉の現場で求められているのはチームの一員としてのスキルでもあるのです。」

臨床実習の充実ぶりは類を見ない。「隣接する高木病院や福岡市の福岡山王病院、柳川リハビリテーション病院などのグループ関連施設で、『現場』に触れる機会があります。体験学習ができます。医療ではこの点が重要な点です。他大学の場合せいぜい見学レベルです。しかし、当学部では、一線で活躍している



航空写真

医師やメディカルスタッフから最新の医療やスキルを直接学ぶことができるのです。そしてもちろん他のスタッフとの交流

で、協同作業のノウハウ、コミュニケーション能力も『現場』で磨かれることとなります。」

それに加えて秀逸な教授陣。辻学部長の他に、元日本臨床検査医学会理事長の渡辺清明氏、前日本病理学会理事長の長村義之氏、前久留米大学医学部放射線科教授で、この五月より高邦会放射線治療センター長に就任した早瀬尚文氏、等々の豪華メンバーである。また病院で臨床に携わる現役ドクターも教育スタッフに加わる。最新の医療技術を修得できるのである。

さて、辻先生が大川に來られた理由の一つは「郷土愛」。「国際医療福祉大学が地域の活性化に資することを願っています。大川が、家具と共に文教都市としても発展していけばと思います。福岡市が発展を遂げた要因の一つはそこに九州大学があったからです。大学が核となって、地域経済・文化面で貢献をできればと願います。二〇一四年中には、地域貢献のために高邦会グループが運営する九階建ての複合施設（大川文化コミュニケーションプラザ（仮称））が大学の近隣に完成する予定です。子育て支援、在宅療養支援のほか、四〇〇席の映画館、書店などが入ります。若者に魅力的な街造りへの一助になればと期待しています。若者にとって魅力あふ



入学式

れる街になってほしいですね。」

夢を聞いてみた。「夢は『医学検査学科』を全国トップに成長させることです。先ほど、授業を終えたばかりですが、学生たちのやる気をひしひしと感じました。モチベーションの高い優秀な生徒たちです。また十年後ぐらいを目途に研究の分野でのトップを目指したいですね。高木理事長は臨床検査技師の研究活動を支える大学院の設置を今検討しているところです。そして私は大川市出身です。まさに大学が地域に貢献することを目指しています。そのためにも、市、商工会議所、市民の皆様をサポートが欠かせないと思っています。是非ご協力をお願いいたします。」